

女性を伝統の技で元気にする

ユニバーサルユースの胡粉ネイル

平成22年度 採択事業

上羽絵惣 株式会社  
取締役 石田結実さん



石田結実さん

日本で唯一の伝統技を絶やさぬために

胡粉とは日本画に用いる白い絵具で、上に塗る色の発色を良くしたり、盛りあげて立体感を出す下地としても使われます。日本人形や能面、神社仏閣の彩色にも欠かせない、伝統芸術を支える画材です。上羽絵惣株式会社は、胡粉をはじめ岩石を微細に砕いた岩絵具を、宝暦元（1751）年から変わらない製法で作っています。

胡粉の原料は、北海道のホタテ貝殻です。貝殻を10年ほど天日にさらして風化させ、臼で細かく粉碎後、職人の丁寧な手作業で生み出された胡粉は、真珠のように艶やかな白色が特徴です。

「文化財の修復にも使われる貴重な画材ですが、古来の製法で手作りしているのは、もう日本ではうちぐらいでしょう。創業時から260年以上にわたって脈々と受け継がれてきた、この技を絶やすわけにはいかない。とはいえ伝統芸術だけの需要では厳しく、時代のニーズに乗っていかないと生き残っていきません」と10代目・上羽豊氏の妹である石田結実さんは語ります。広く一般の人に使ってもらえる実用性を考えるうち、「画家だけでなく、人はすべてアーティストだ」と思うようになったそうです。ファッションや化粧品も自分を表現する美的な手段なので、この分野に活かそうと石田さんは考えました。



蔵とモダンなディスプレイが調和した店内

有機溶剤を使わないマニキュア

ちょうど、世間ではネイルアートがはやりだしていました。そんなある日、たまたまラジオから、工業高校の女子高生が車のホタテ塗料を爪に塗っているという話がありました。それなら胡粉でもマニキュアが作れるのでは？と、思い至った石田さん。とはいえ、絵具屋がただのマニキュアを作ったのでは面白くないので、魅力的な商品にしていく方法を模索したのです。

知恵と卓越した技術 伝統製品の活用

胡粉の主成分である炭酸カルシウムは口に入れても安全で、塩豆にも使われ、爪や皮膚を保護・保湿する機能もあります。けれども、定着させる液剤や落とすときの除光液が問題でした。従来のマニキュアに用いられる有機溶剤は刺激臭があり、ジェルネイルは「水仕事をする爪がピリピリして痛いから、カバーするためにまた塗るとますます傷む。自分の爪がどんどんひどくなっていくようで心配だ」という悩みも若い女性から聞きました。

痛いからカバーするためまた塗ってさらに傷む、この悪循環を断って健康な爪にしてあげたい。安全でダメージの少ない溶剤はないだろうか…と試行錯誤を繰り返し、胡粉の微粉末を水系エマルジョン（乳化液）で溶かすことに成功。完成した「胡粉ネイル」は、胡粉に含まれるホタテ貝殻の真珠層が爪をナチュラルな輝きで彩り、通気性や速乾性にも優れていました。しかも消毒用アルコールで簡単に落とせるので、除光液は不要です。曾祖父が考えた、商売の神様・伏見稲荷の白狐を象ったトレードマークをラベルに用い、そのアールデコ調デザインも目を引きました。



商いの神様にちなむ白狐の商標

色数を増やし香りのおしゃれも

平成22（2010）年1月20日にまず売り出したのは透明な「白光」で、次いで淡いピンクやオレンジなど数色を発売。ちょうど開発中に、京都商工会議所の「第1回知恵ビジネスプランコンテスト」へ応募してみないかとの誘いを受け、認定6社の一つに選ばれたのをきっかけにファンドを紹介され、色数の充実や子ども用ネイルの開発につながったそうです。

有機溶剤のツンとするにおいがなかったため香りをつけやすいメリットもあるので、天然香料を加えてほのかに香るアロママニキュアも発売しました。今では、リラクゼーション作用のある香りのシリーズなどもラインナップされています。いっぽうで、消毒用アルコールで取れるということは落ちやすい弱点があるとも言えるので、スーパーコート剤も

開発しました。今後は胡粉の持つ特性を活かした商品も手がけていくそうです。



色も香りも多彩、爪にやさしい胡粉ネイル

「色のプロ」の視点でアプローチ

胡粉ネイルは、おしゃれしながら爪を守ってくれる天然素材のネイルケアとして話題になりました。マスコミにも取り上げられ、健康を気遣う妊婦や肌がデリケートな人はもちろん、子どもがお絵描き感覚で塗ったり、お洒落をなかなか楽しめない人の気分を明るくするために、などと使われるようになりました。また、マニキュア一つでお年寄りの表情がにこやかになって喜んでもらえる、老人ホームからのニーズもあったそうです。発売当初は1年で6,000本の販売を目指したのですが、口コミで使い心地の良さが広まって約4カ月で完売。以来、ネットショップや化粧品店だけでなく、和装品店やミュージアムショップ、生協などへと販路を拡大しています。

石田さんは、「これからも、京都の気候風土に合った色のプロでありたいと思っています。京都の色彩美を堪能しに来られるお客様に、この美しい色をお土産として持って帰っていただけたら…」との願いを胸に、さらなる品質向上と胡粉製品のバリエーションアップを目指しながら、日本の色彩文化と天然素材の魅力を発信していくとのことです。

事業概要

上羽絵惣 株式会社  
http://www.gofun-nail.com/  
代表：上羽豊  
業種：日本画用絵具製造・卸、化粧品販売  
創業：宝暦元（1751）年 設立：平成元（1990）年  
住所：〒600-8401 京都市下京区東洞院通松原上ル燈籠町東側  
TEL：075-351-0693 FAX：075-365-0613